

三菱パイプ用ファン（給気・循環ユニット・居室用）

形名

V-08PQMX-H（微小粒子用高性能フィルター搭載タイプ）

据付説明書









販売店・工事店様用

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。必ずお渡しください。

- この製品の性能、機能を十分発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付けが必要です。据付けの前に、この据付説明書を必ずお読みください。
- 据付け、壁穴工事はお買上げの販売店・専門の工事店様が実施してください。（間違った据付け、工事は、故障の原因になります）
- 電気工事は、電気工事士の方が実施してください。
- 雨水浸入防止のため、外風の吹き付けの強い場所では耐外風高性能フードを据付けることをおすすめします。
- 接続パイプは、市販品の塩化ビニル管（VU、VP（呼び径100mm））または、銅板管（内径100mm）のいずれかをご使用ください。
- この製品は常時運転の給気専用タイプです。
- 本体スイッチの操作が困難なところに据付ける場合は、壁スイッチ（システム部材のコントロールスイッチまたは市販品）の併用をおすすめします。また、壁スイッチは容易に停止されないよう工夫が必要です。
 （例）（・常時運転すべきことを指示する注意書きの貼付けのあるもの。 ・長押しでOFFとなる構造のもの。）
 （・切りボタン（OFFスイッチ）にカバーを設けた構造のもの。 ・専用ブレーカーを設ける。）
 （強・弱切換タイプのコントロールスイッチは使用できません）

安全のために必ず守ること

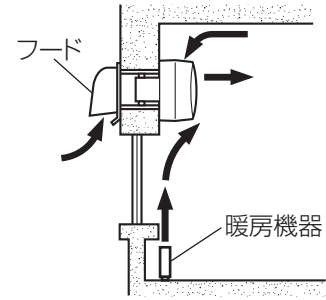
据付けを始める前に、誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しておりますので、よくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

 警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの	 注意	誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの
 分解禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●改造や工具を必要とする分解はしない （火災・感電・けがの原因） 	 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●高温（40℃以上）になる場所や直接炎のあたる場所、油煙・有機溶剤・可燃性ガスのあたる場所には据付けない （火災の原因）
 風呂・シャワー室での使用禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●浴室など湿気の多い所には据付けない （感電・故障の原因） 		<ul style="list-style-type: none"> ●端子台カバーは工事後必ず据付ける （ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因）
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●壁据付専用のため、天井には据付けない （落下によるけがの原因） 		<ul style="list-style-type: none"> ●据付けの際は手袋を着用する （着用しないとけがの原因）
 指示に従い必ず行う	<ul style="list-style-type: none"> ●交流100Vを使用する （直流や交流200Vを使用すると感電の原因） ●外気の取り入れ口は燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ （新鮮な空気が入り入れられず、室内の酸欠の原因） ●本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に （落下によるけがの原因） ●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう据付ける （漏電・発火の原因） 	 指示に従い必ず行う	<ul style="list-style-type: none"> ●接続パイプは室外に向かって下りこう配になるように据付ける （雨水の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因） ●ドレン排出は、据付説明書に従って確実に行う （水漏れによる感電・火災や家財の破損の原因） ●据付け後長期間使用しないときは、分電盤ブレーカーを切る （絶縁劣化による感電や漏電火災の原因） ●電気工事は電気工事店に依頼する （感電の原因） ●電気工事は、電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令（及び同解説）」及び「内線規程」に従って安全・確実に行う （接続不良や誤った電気工事は、火災・感電の原因）

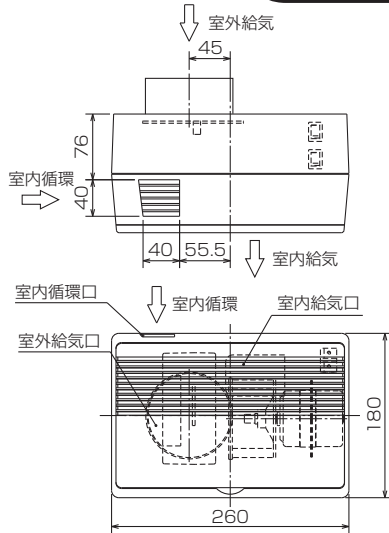
お願い

- 高温（40℃以上）になるところに据付けしないでください。（故障の原因になります）
- アルミフレキシブルダクトへの据付けはしないでください。（振動の原因になります）
- スプレーをかけないでください。（グリルが破損する原因になります）
- 下記環境下で使用しますと、本体から結露水が滴下することがあります。（屋外温度-10℃以下で室内温度15~25℃・室内湿度45%以上）
- 塩害、温泉害の発生している場所には据付けしないでください。（故障の原因になります）
- 火災警報器がある場合は、感知部から1.5m以上離れたところに据付けてください。

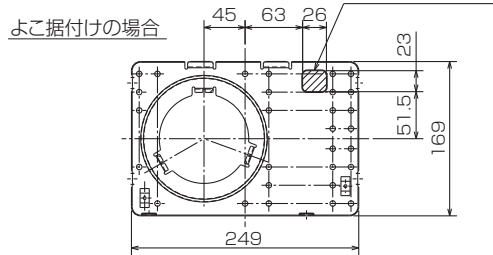
- 冬期の場合、より冷風感を軽減するために、下図のような設置をおすすめします。



1. 外形寸法図

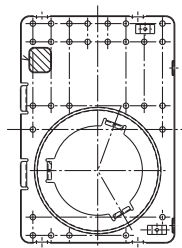


■据付位置図(室内側より見る)



単位(mm)

たて据付けの場合



※天地逆据付不可。

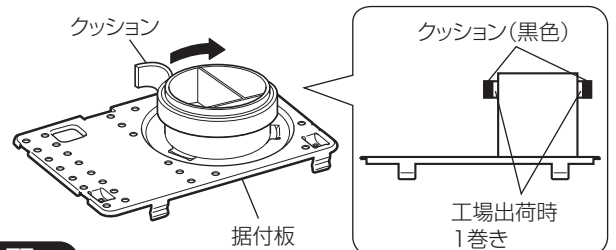
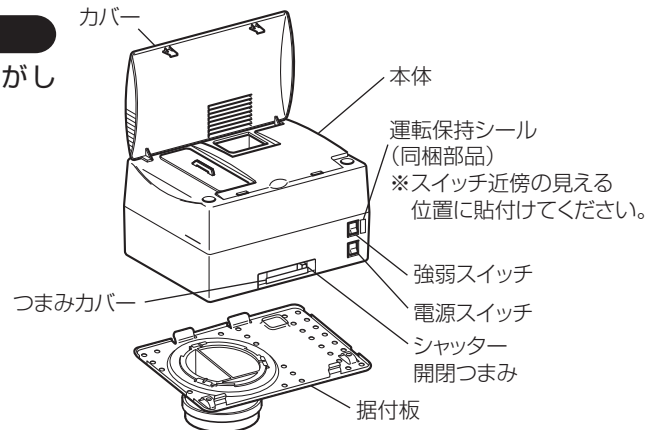
2. 同梱部品を確認してください

- 木ネジ.....4本
- 本体固定ネジ.....2本
- クッション
黒色.....1本
- 運転保持シール
強運転用.....1枚
- 弱運転用.....1枚

3. 据付けの前に

据付板をはずす

本体背面のテープをはがして、据付板をはずす。



〈接続パイプ別準備〉

接続パイプは市販の塩化ビニル管（VU、VP（呼び径100mm）または鋼板管（内径100mm）のいずれかをご用意ください。

お願い

- アルミフレキシブルダクトへの据付けはしないでください。（振動の原因になります）

VP管（呼び径100mm）・鋼板管の場合（内径100mm）

そのまま挿入する。

VU管の場合（呼び径100mm）

本体パイプ部クッション上に付属のクッション（黒色）をかさねて巻き付ける。

お願い

- クッションの貼付けを確実にしないと、接続パイプと本体のすき間から雨水等が浸入して壁を汚すことがあります。
- クッションは本体下部に合わせ目がこないように巻き付けてください。

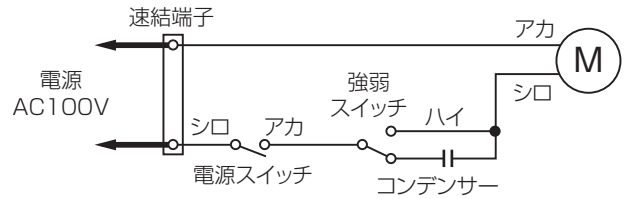
4. 結線図

100V専用・誤結線注意

■電気工事は、電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令（及び同解説）」及び「内線規程」に従って安全・確実に行ってください。

■太線部分の結線をしてください。

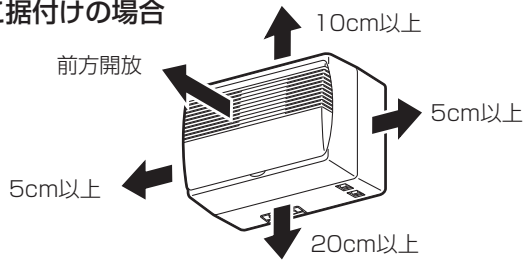
- 適用電線：VVF 2芯φ1.6またはφ2.0
- ※太線部の結線はお客様にて施工してください。



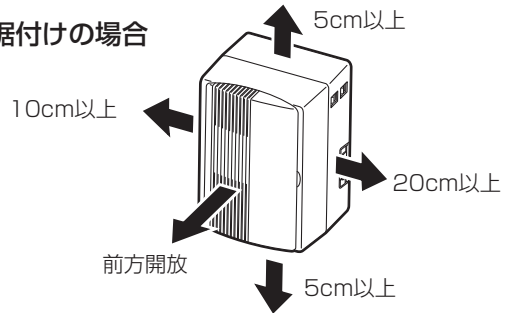
5. 据付方法

●本体の周囲には下記の寸法以上の空間が必要です。

よこ据付けの場合

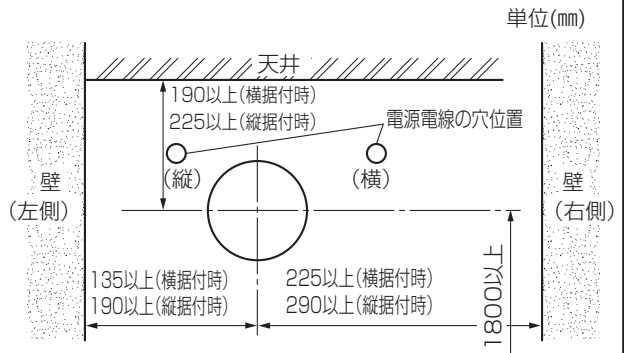


たて据付けの場合



1. 壁穴工事

- (1) 据付位置を決め接続パイプの穴をあける。
 - 必ず床面より1800mm以上のところに据付けてください。なお、フィルター等のメンテナンスが必要です。メンテナンスができる高さに据付けてください。
- (2) 屋外に据付けるシステム部材（フードなど）の接続パイプと本体が当たらないようにパイプの長さを決める。
 - 接続パイプが室内側壁面から出る寸法は3mm以下としてください。
- (3) 壁穴に接続パイプを差し込みコーキングして確実に固定する。
 - 固定が不十分ですと振動したり異常音を発生する原因になります。
 - 室外に向かって下りこう配をつけて固定してください。



⚠注意

- 接続パイプは室外に向かって下りこう配になるように据付ける。（雨水浸入による感電火災や家財を濡らす原因）

2. 電源電線の引き出し

- 外形寸法図を参照し、電源電線を室内側へ引き出す。
- 電源電線はVVF 2芯φ1.6、φ2.0をご使用ください。

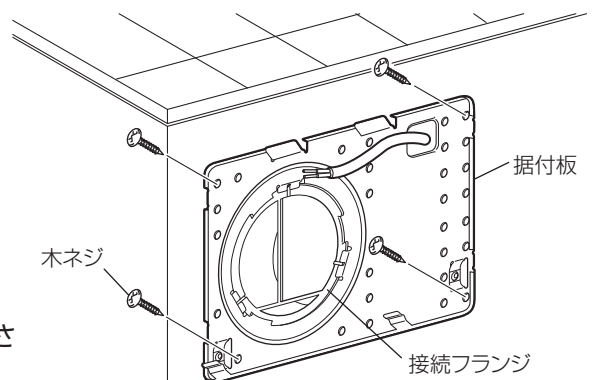
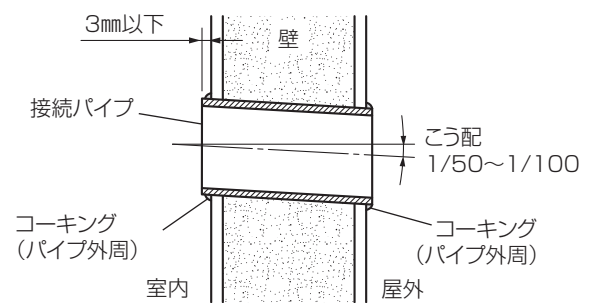
3. 据付板の据付け

据付板を固定する

据付板の水平を確認し、補強材のある位置に木ネジ4本（同梱）で据付板を固定する。

お願い

- 木ネジはできるだけ4すみの均等な位置で固定してください。
- 据付板は水平（1°以内）に据付けてください。
- コンクリート壁の場合はコンクリートビスで固定してください。（市販品）



据付方法 つづき

4. 電気工事

電源電線の接続・電気工事などは、必ず専門の工事店へご依頼ください。

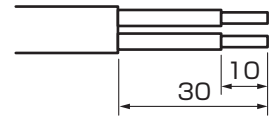
⚠警告

- 交流100Vを使用する（直流や交流200Vを使用すると感電の原因）

⚠注意

- 電気工事は電気工事店に依頼する（感電の原因）
- 電気工事は、電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令（及び同解説）」及び「内線規程」に従って安全・確実に行う（接続不良や誤った電気工事は、火災・感電の原因）

単位(mm)

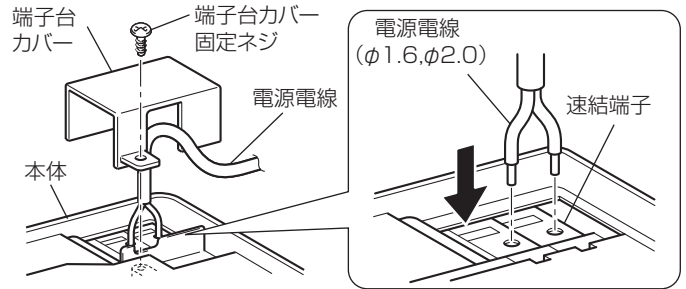


1. 端子台カバーをはずす

- (1) 端子台カバー固定ネジをゆるめて、端子台カバーをはずす。

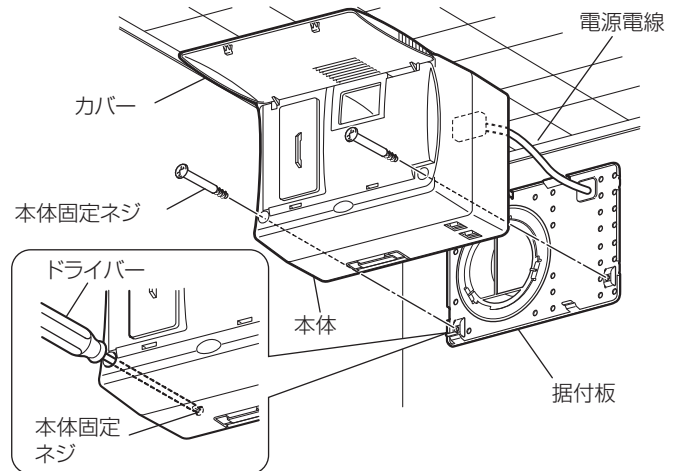
2. 結線をする

- (1) 結線図のとおり結線をする。
電源電線を右図の寸法にて皮むきし速結端子に差込む。
- (2) 端子台から電線が抜けなことを確認する。



3. 端子台カバーを据付ける

- (1) 端子台カバーを据付ける。
- (2) 端子台カバー固定ネジで端子台カバーを固定する。
 - 端子台カバー側壁にて電源電線をはさまない様、端子台カバーを据付けてください。



5. 本体の据付け

本体の固定

- (1) 据付板（2ヶ所）に本体を引掛け、はめ込む。
- (2) 本体を壁側に押しつけて、カバーを開け本体固定ネジ2本で固定する。

6. 据付け後の確認

- 据付け終了後、試運転の前にチェック表（下記）にしたがって点検します。
- 不具合があった場合は必ず直してください。（機能が発揮されないばかりか、安全性が確保できません）
- チェック表

	チェック項目	不具合時の対策	チェック
据付け	本体の据付け強度は十分ですか？	補強する	
	本体が確実に据付けられていますか？	本体固定ネジを締め直す	
	コーキングはしましたか？	コーキングをします（コーキングをしないと雨水が浸入します）	
試運転	電圧は100Vですか？	100Vに直します（異電圧を印加すると破損します）	

7. 試運転

- できるかぎりお客様立合いで、試運転を行ってください。

1. 電源を入れる
 1. 分電盤ブレーカーを入れる。
 2. 電源スイッチを入れる
2. 異常な振動・騒音がないか確認し、確認後停止する
 - 本体スイッチおよび分電盤ブレーカーを切る。
 - つまみカバーを開き、シャッターを閉じる。
3. お客様に強あるいは弱運転を保持していただくために同梱の運転保持シールをスイッチ近傍の見える位置に貼付けてください。

お客様への説明

- 分電盤ブレーカーの位置をお客様へ説明してください。
- チェック表の結果をお客様へお知らせください。
- この「据付説明書」は、別冊の「取扱説明書」とともにお客様にお渡しください。
- お客様が不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理人へ説明してください。

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、再生紙を使用しています。